

大手ゼネコン幹部「不動産、買ってはいけない」

スクープ袋とじ 国民的アイドルが「私のセックス」初公開!

元おニヤン子 渡辺美奈代 人気絶頂時代の幻ヌードを発見

佐山彩香 最強の「むっちり」裸身 熱討 小泉今日子を語ろう



「1割引き」と「10%ポイント還元」どっちが得だと思いますか? おカネの心理学

週刊現イセ

「ヒゲの殿下」一家に何が!?

三笠宮家 母と娘「愛と憎しみ」の20年

巨大地震発生! その時、あなたは「エレベーターの中」

6月20日
Weekly Gendai
2015 June

19歳の天才ストッパー
楽天・松井裕樹の「青春と才能」

独占120分 前駐韓日本大使・武藤正敏氏が断言

「悪いのは日本なのか、韓国なのか」
最低最悪の事態、さあ、どうする

巻頭大特集 「株高」「円安」「不動産暴落」の真実

「日本株」6月18日に 起きる超円安!

「1ドル1200円」に
行き着くという
見方もある

故郷にボンと20億円寄付
「トケチ」で有名 稲盛和夫は変心したのか

国民的グループの元メンバーが最初から最後まで見せた
スクープ袋とじ **これがアイドルのSEXだ**

必ず立つ、われらが救世主はバイアグラを超えた
第4の勃起薬「ザイデナ」が凄い

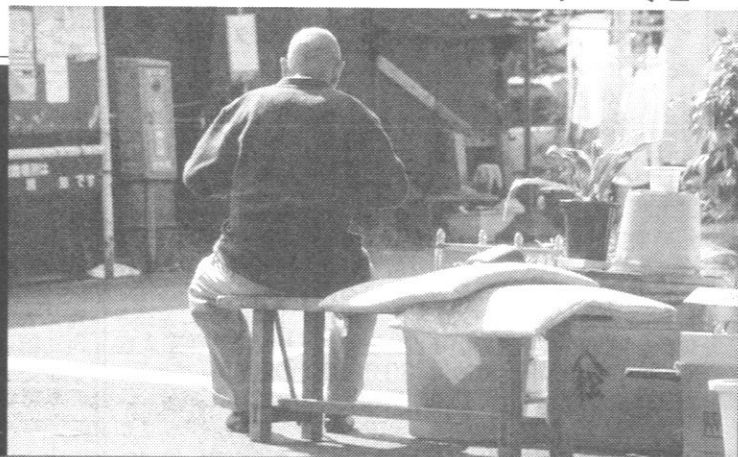
没後20年記念カラー! テレサ・テン 歌姫は永遠に

続出! 「認知症」で家計崩壊

65歳以上の3人に1人、全国1000万人の大問題



続出!



「認知症」で 家計崩壊

認知症は、単に記憶がなくなっていく病ではなかった。気づいたときには人生をかけて積み上げてきた財産が消えている。そんなトラブルに苦しむ人が急増している。あなたは自分や家族を守れますか。

「親切な販売員」の言うままに

「おかしいのよ。電気代が引き落とせまわらなくて、電気会社から振り込み用紙が送られてくるの。そんなわけないのにねえ」

14年秋、東京・杉並区在住の80代の母親と電話で話していた50代の男性が、最初に違和感を覚えたのは、母親のこんな言葉だった。

商社に勤めていた父親は、母親に木造2階建て4戸のアパートを遺していた。家賃で毎月20万円近い収入があるはずだ。さらに、母親には月々3万円程度の年金もあった。これまで、あまりぜいたくもせず、コツコツ貯めてきた預貯金だってあるだろう。

なぜ、電気代が引き落とせないのか？

認知症——。それは主に、「記憶がなくなっていく病気」だというイメージが強いだろう。

しかし、認知症の恐ろしさは、ただ記憶が失われることだけではない。実際には本格的に症状が進行する以前から、判断力が衰え、自分がどこかおかしくなっているという恐怖に駆られて情緒が不安定になったり、ふさぎ込んだり、患者の心を蝕んでいく病なのだ。

厚生労働省の推計では認知症患者は現在、約500万人。さらに認知症の予備軍である軽度認知障害を含めれば、10年後

の25年には1000万人を超える見込まれる。

それは65歳以上の人口の、実に3人に1人にあたる。家族や友人のなかに認知症患者がいないなどという人は、ほとんど存在しなくなると言っても過言ではない。

そんな「国民総認知症時代」の到来を目前に控えたいま、急増しているのが、「認知症破産」とも呼ぶべき問題だ。

長い年月をかけて積み上げてきた預貯金。子供たちを育て上げた土地や家屋。そうした資産を認知症によって、あわや失いかけた、いや実際に失ったといった事例が急増しているのだ。

冒頭の女性も預貯金を失った一人だ。息子の話をもう少し聞いてみよう。男性が暮らす西東京市の家から、杉並区の実家までは、電車と徒歩で40分ほどの距離。だが「いつでも行けるから」という気持ちのゆるみもあり、

思い返せば半年以上、実家の様子を見ていなかったという。

「母さん、ちよつとその電気代の件、おかしいから、俺、見に行くよ」

そう言って数日後、久々に実家に帰ったときの衝撃を、こう証言する。「扉を開けた瞬間、ブワツと、甘い奇妙な臭いが迫ってきたんです。玄関には『健康を守る』と書かれた箱が山積みになっている。あとで確認すると、中身はゼリーのようなものでしたが、古いものにはカビが生えて、異臭を放っていました」

母親に聞いたのですが、はつきりした返事はなく、「身体にいいものだと言われたから……」と繰り返す。どうやら健康食品の定期購入の契約を結んでいるらしかった。

「さらに居間に入って目を見張りました。金取引やどこかの社債、太陽光パネルや海外不動産への投資といったパンフレッ

トがテーブルの上で散乱している。母に「これはどうしたの?」と訊くと、「親切な人が持ってきてくれるの」と言う」

預金通帳を受け取り、記帳してみると、1000万円以上あった預金は3ヵ月間ほどの間に繰り返され、底をついていた。さらに、前述の健康食品など定期購入の代金として、毎月の収入も消し飛んでしまっていたのだ。「母が読まずに放り出していた郵便物のなかには、健康食品の会社から、『商品の代金が引き落とせない。違約金として100万円請求することになる』などという脅迫めいた手紙も来ていました。でも、はじめから母の状態を知っていて、理不尽な脅しをかけてきたのでしよう。私が電話をすると、すんなり引き下がって、『お大事に』などと答えたきり。いま電話をかけても、その番

同じモノを何度か買う

号にはつながりません」この男性の母親が言う「親切な人」とは誰だったのか、結局はわからず

じまい。投資名目で奪われたと思しき1000万円近いカネの行方も、わからないまままだという。

こうした認知症と思しき高齢者を狙った悪質なセールのが、現在急増している。国民生活センターが昨年9月に発表した統計によれば、認知症などで判断能力が不十分な60歳以上の消費者がトランプルに巻き込まれた事例は、13年に1万1499件と、はじめて1万件を超えた。代金を支払ってしまった平均額は約150万円。金融商品でのトランプルはさらに単価が高く、ファンド型投資商品で平均600万円程となった。

ラブルになるケースは少ないのですが、やはりその前の段階で問題になるパターンが多いのです。企業の側に、『契約されたときには正常でした』などと言われてしまうと、家族の側が打てる手は少なくなってしまう」

高齢者問題に詳しいNPO「二十四の瞳」代表の山崎宏氏は、こう話す。「認知症と確定診断が下ったから、家族も注意しているの、大きなト

悪質な業者による被害が多発する一方、さらに切実な問題も起きている。それは、悪意のある営業などに引っかけられた消費者が無駄な出費を繰り返して、財産を失ってしまふというパターンだ。

「認知症と確定診断が下ったから、家族も注意しているの、大きなト

「足腰を悪くされている80代のある女性の家に、家事の補助ということでは

「認知症と確定診断が下ったから、家族も注意しているの、大きなト

「足腰を悪くされている80代のある女性の家に、家事の補助ということでは

派遣されて行ったんです。すると、お台所に昔ながらの牛乳ビンが、4、5本並んでいるんですね。見ると、なかには古くなくて発酵したからでしよう、フタが飛んで黄色い汁が浮いているものもある。片付けようとする、ご本人が、「何をしているの!もったいない!」

む80代の元会社員の男性は、一昨年の夏に折からの暑さのためか、道路でふらつき転倒、骨折で入院した。着替えなどを取ってこようと、男性の住むアパートの部屋を訪れた娘は、寝室に積み上げられた新品のワイシャツやビジネスバッグなどの山を見て仰天した。

「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

「何度か来たんですけど、上機嫌にお買い上げいただくので、いろいろお勤めしていたのですが……」病院の父に聞いたですと、わけがわからないという様子で怒り出した。「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

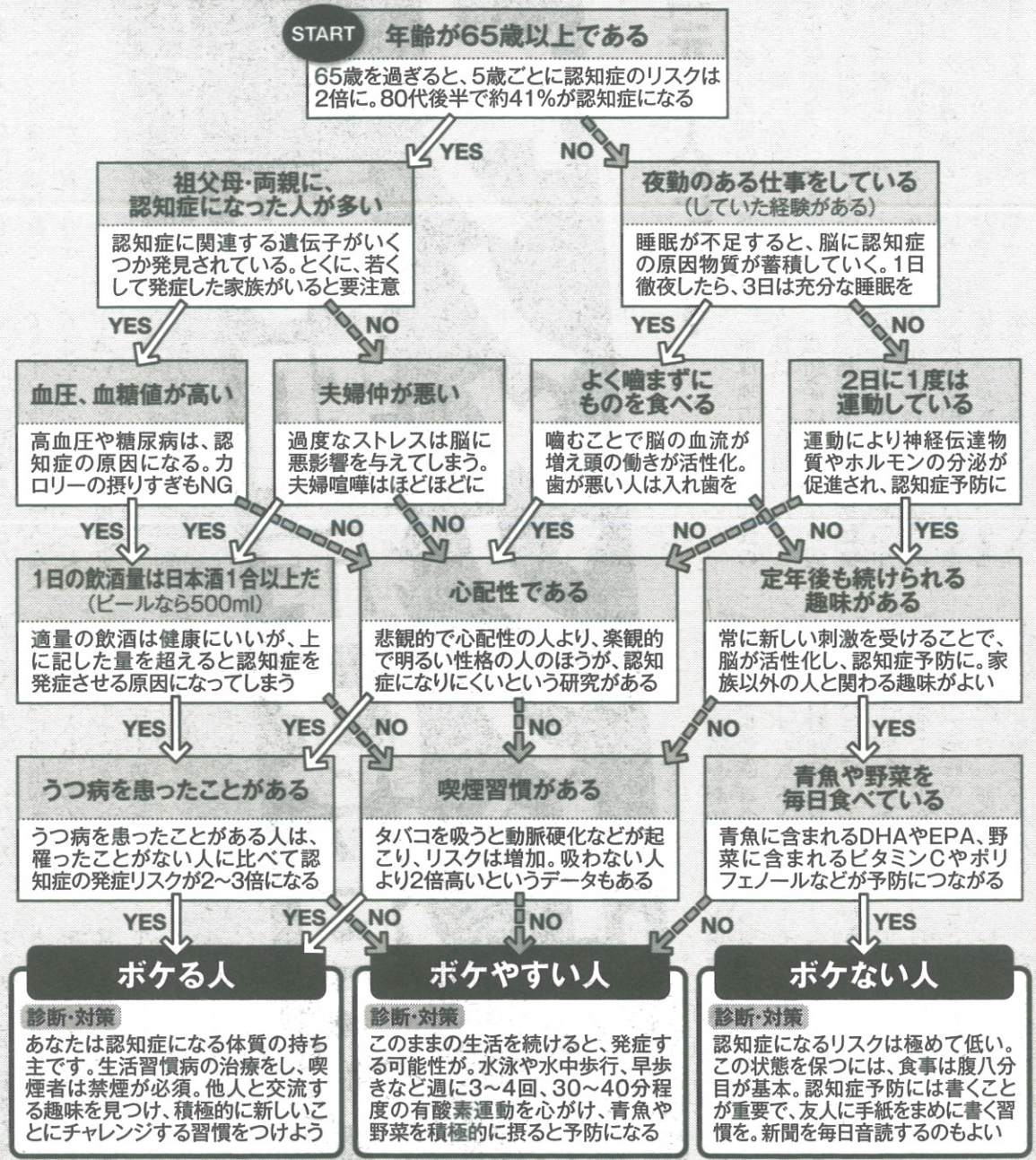
「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

「お前は何を言ってるんだ。私はそんなにシャツなんか買っていない。あの子は新入社員で頑張っているから、今度また買っただけじゃないか。店に

あなたの「認知症」予備軍度が分かる「ボケる人」「ボケやすい人」「ボケない人」

簡単診断



医療最前線

び歩くような性格でもなかった。直後に認知症と診断されたが、寂しさを

他の形で解消することができず、少し親切そうな若者を見ただけで、「お小遣い」といって現金を

渡してしまっていたのだ。判断力に自信がある人も、ない人も、多くの人が直面することになる認知症。生活を破綻させな

いたためには、家族や他人とのコミュニケーションを大切にすることでなく、常に自分の状態を確認していくしかない。

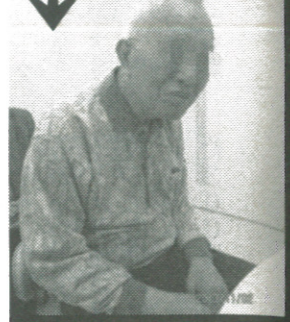
前ページの図では、あなたが認知症になりやすいかを簡易的にチェックできる。全国1000万人の、認知症破産の可能性。もはや誰にとっても他人事ではない。

認知症は治る！「コウノメソッド」の挑戦

「元の人」に戻す

「75歳の義理の母は認知症で、顔の表情も乏しくて生気がなく、車椅子がないと出歩くこともできない状態でした。」

それが河野先生のクリニックで点滴を受けたら、終了から15分ほどで自分から立ちあがって一人で歩きはじめたんです



患者(上)が1年の治療で穏やかな紳士に戻った(下)

東海地方に住む40代の女性は、こう語った。

認知症は「治らない病気」というイメージが根深い。だがいま、「認知症は治せる」と断言する、ある医師が編み出した治療法が、患者や家族、専門家の注目を集めている。「コウノメソッド」と呼

ばれる、その一群の治療法を提唱しているのは、名古屋フォレストクリニックの河野和彦院長。

河野氏は毎年、1200人以上の認知症の初診患者を診察し、「11年の読売新聞『病院の実力』認知症編」で「初診者数日本一」と報じられたこともある。30年以上、現

場で認知症の患者を診つづけてきた第一人者だ。

その河野氏はこう語る。「認知症は治らないというのが通説になっていて、医師でさえ多くが『治らないから仕方がない』とサジを投げてしまっているのが現状です」だが、その「治らない」という医師たちの考え方は

そのものに問題があると河野氏は指摘する。「たしかに、認知症の原因である脳の萎縮を、完全に元に戻すことはできません。しかし、認知症が患者や家族を苦しめるのは、徘徊や暴言、暴力、ありもしないものが見える幻視、食事できない、

SNSを取ること」だ。たとえば、ある72歳の男性は認知症と診断され、地元の医師からアリセプトを処方された。だが症状は改善するどころか、日増しに悪化した。「ご家族に連れられてきた当初は、ひたすらワールと叫び続け、勝手にカールテに触るなど異常行動を取っていました。これは認知症の一種、ピック病の特徴で、興奮しやすいのです。そこで私はアリセプトを中止し、興奮を抑える処方へ替えました。しばらくすると、この方はすっかり落ち着いてニコニコ笑うまでになりました」(河野氏)

といった認知症の「症状」であって、これは治せません。私は患者さんの人間性を回復させ、「元の人」に戻すための治療を実践しているのです

そのコウノメソッドとは、どのようなものか。「そもそも、認知症と一口に言ってもいろいろなタイプがあります。もっとも多いのは4割ほどを占めるアルツハイマー型認知症ですが、他にもレビー小体型認知症やピック病(前頭側頭型認知症)、脳血管性認知症などがあります。さらに、パーキンソン病やうつ病で、認知症に似た症状を発症している患者さんもあります。複数のタイプが合併している場合もあって、実に千差万別です」(河野氏)

問題は、こうした認知症のタイプによって、薬の効き方がまったく異なるということだ。「たとえば、レビー小体型の患者さんは、薬が効きすぎるという特徴があります。それをアルツハイマー型やパーキンソン病と診断して、間違った投薬をしてしまうと症状が悪化します」(河野氏)

レビー小体型の患者をパーキンソン病と誤診して治療薬を投与していると、食事が摂れなくなり、幻覚や妄想が現れることがあるという。冒頭の女性の義母も、認知症をパーキンソン病と誤診され、誤った薬を処方されていた。

また脳血管性認知症の患者に抗うつ剤を投与す

ると認知症が悪化し、寝たきりになることもある。逆に、認知症ではないパーキンソン病の患者に抗うつ剤を処方すると、認知症症状が出ることもあるという。薬の出し方ひとつが患者や家族の運命を大きく

薬で症状が悪化するケースも

だがコウノメソッドの本領発揮はここからだ。「実は、認知症治療で一番の問題を引き起こしているのは、一般にも有名な認知症薬アリセプトの使われ方です」(河野氏)アリセプトは、99年に発売された日本発のアルツハイマー病の進行を抑える薬だ。11年に新しい薬が発売されるまで、実に12年間、日本で唯一の認知症薬として普及してきた。河野氏は言う。

「アリセプトは、適切に使えば大変効果的な薬です。しかしせっかくの良薬も、使い方次第では症状を悪化させてしまう。

左右するのだ。コウノメソッドの第一歩は、まず「患者を正しく診断し、本当に合った薬を選ぶこと」だ。これだけで、誤った処方で生まれた認知症症状などは、丸ごと消えてしまうことにもなる。

そもそもアリセプトが効くのは主にアルツハイマー型です。にもかかわらず、認知症がよく分かっている医師の多くは、『どうせ何を出しても一緒だ』と機械的にアリセプトを出している。ところが、アリセプトには人を興奮させる作用があるのです。人によっては極端に怒りやすくなる、暴れるなどの症状が出ます。『医者にかかると、急に認知症が悪化した』というご家族が多くいます。それが原因であることが多いのです」

コウノメソッドの肝は、薬の「興奮・抑制のバラ

薬の効き方や副作用は個人差が大きく、患者の日々の体調によっても変わる。コウノメソッドでは、介護者(家族)が、ふらつきや興奮の度合いなど、毎日の変化を観察し、医師の指導の下、薬の量を加減する「家族天秤法」を勧めている。その人に合った薬の使

「認知症」で家計崩壊

千差万別です」(河野氏)

ドキュメント パナソニック 人事抗争史

人事がおかしくなるとき、会社もおかしくなる

岩瀬達哉 定価 本体1380円(税別) 講談社